

2025年10月31日

2026年3月期 上期 決算説明資料

東証プライム・名証プレミア 証券コード:2053
ホームページ <https://www.chubushiryo.co.jp/>
お問い合わせ先 TEL: 052-204-3050 総務人事部

26.3上期 決算レビュー

◇ 連結経営成績	4
◇ 営業利益の増減要因	5
◇ 連結財政状態	6
◇ 事業環境①②③	7-9
◇ 飼料セグメントの状況	
① 畜産飼料の動向	10
② 原料ポジションの状況	11
③ 変動費及び固定費の状況	12
④ 水産飼料の動向	13
◇ その他セグメントの状況	14

株主還元

◇ 配当・自己株式取得の状況	16
◇ 株主優待	17

通期見通し

◇ 通期計画	19
◇ 今後の見通し①②	20-21

その他

◇ トピックス①②	23-24
◇ 参考資料	25

26.3上期 決算レビュー

◇ 連結経営成績	4
◇ 営業利益の増減要因	5
◇ 連結財政状態	6
◇ 事業環境①②③	7-9
◇ 飼料セグメントの状況	
① 畜産飼料の動向	10
② 原料ポジションの状況	11
③ 変動費及び固定費の状況	12
④ 水産飼料の動向	13
◇ その他セグメントの状況	14

株主還元

◇ 配当・自己株式取得の状況	16
◇ 株主優待	17

通期見通し

◇ 通期計画	19
◇ 今後の見通し①②	20-21

その他

◇ トピックス①②	23-24
◇ 参考資料	25

連結経営成績

(単位:百万円)

	通期計画	25.3上期 実	26.3上期 実	前年同期比	計画進捗率
売上高	212,000	103,445	102,991	△454	48.6%
飼料	194,500	95,139	93,953	△1,186	48.3%
その他 ※1	17,500	8,305	9,038	732	51.6%
営業利益	5,200	2,186	2,414	227	46.4%
経常利益	5,600	2,431	2,725	293	48.7%
セグメント利益 ※2	5,850	2,609	2,949	340	50.4%
飼料	5,200	2,147	2,528	380	48.6%
その他 ※1	950	612	484	△127	51.0%
調整額 ※3	△300	△149	△62	87	—
当期純利益	4,100	1,805	2,082	277	50.8%
設備投資額	3,500	2,491	1,547	△944	44.2%
減価償却費	3,050	1,400	1,451	50	47.6%
基金負担金	5,500	2,545	2,653	108	48.2%

◇ 売上高は減少
 ○ 飼料セグメントは畜産飼料販売量が増加したものの、平均売価が下落したことにより減収

◇ 営業利益は増益
 ○ 次ページで説明

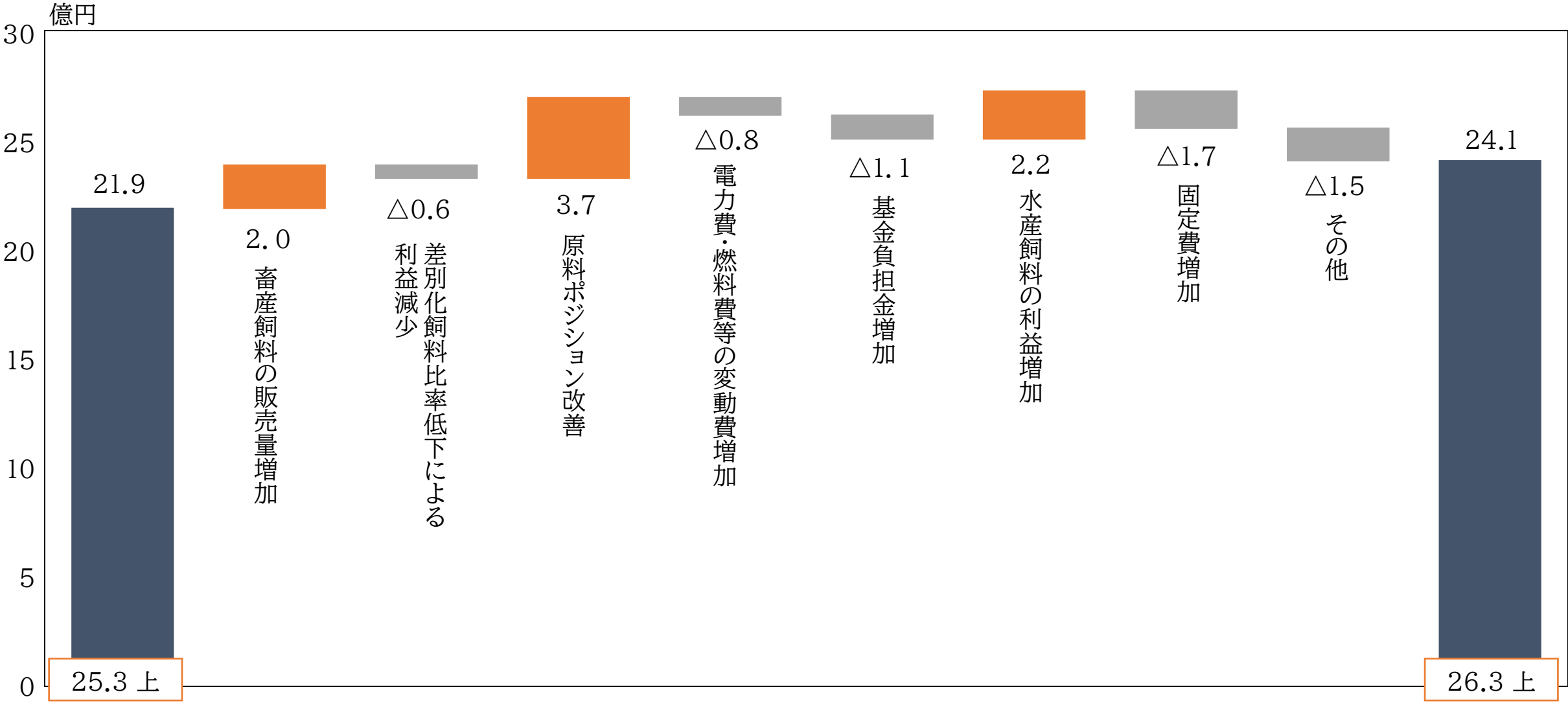
◇ 飼料セグメントは10ページ以降
 その他セグメントは14ページを参照
 ◇ 調整額は、受取配当金と投資有価証券売却益の増加により改善

◇ 設備投資額は、前年同期比では減少しているものの、計画通りに進捗

※1. その他セグメント:鶏卵販売・肥料・畜産用機器・保険代理業等
 2. セグメント利益:税金等調整前当期(中間)純利益
 3. 調整額:各報告セグメントに配分していない全社費用、金融収支を含む

営業利益の増減要因

◇ 営業利益は、原料ポジション改善、水産飼料の利益増加、畜産飼料の販売量増加により増益



26.3上期 要約連結貸借対照表

(単位:億円)

流動資産	653 (△8)
現預金	118 (△1)
売上債権	374 (△15)
たな卸資産	120 (+10)
流動比率 297.3%(+14.1pt)	
固定資産	370 (+15)
有形	258 (+0)
無形	3 (△0)
投資その他	107 (+15)
総資産	1,023 (+7)

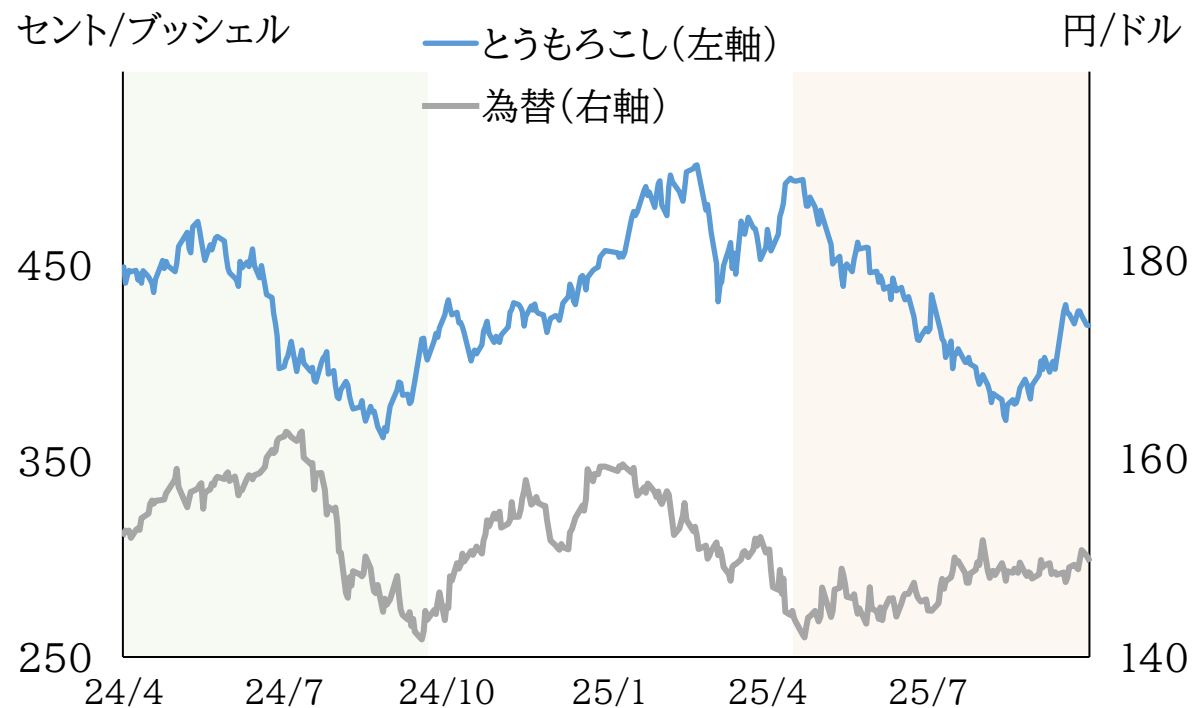
負債	331 (△8)
買掛金	146 (△5)
有利子負債	87 (△10)
DEレシオ 0.13倍(△0.01倍)	
純資産	691 (+16)
株主資本	648 (+5)
その他包括利益	42 (+11)
非支配株主持分	0 (△0)
自己資本比率 67.5 %(+1.1pt)	
負債・純資産	1,023 (+7)

※ ()内の数値は、25.3期末との比較

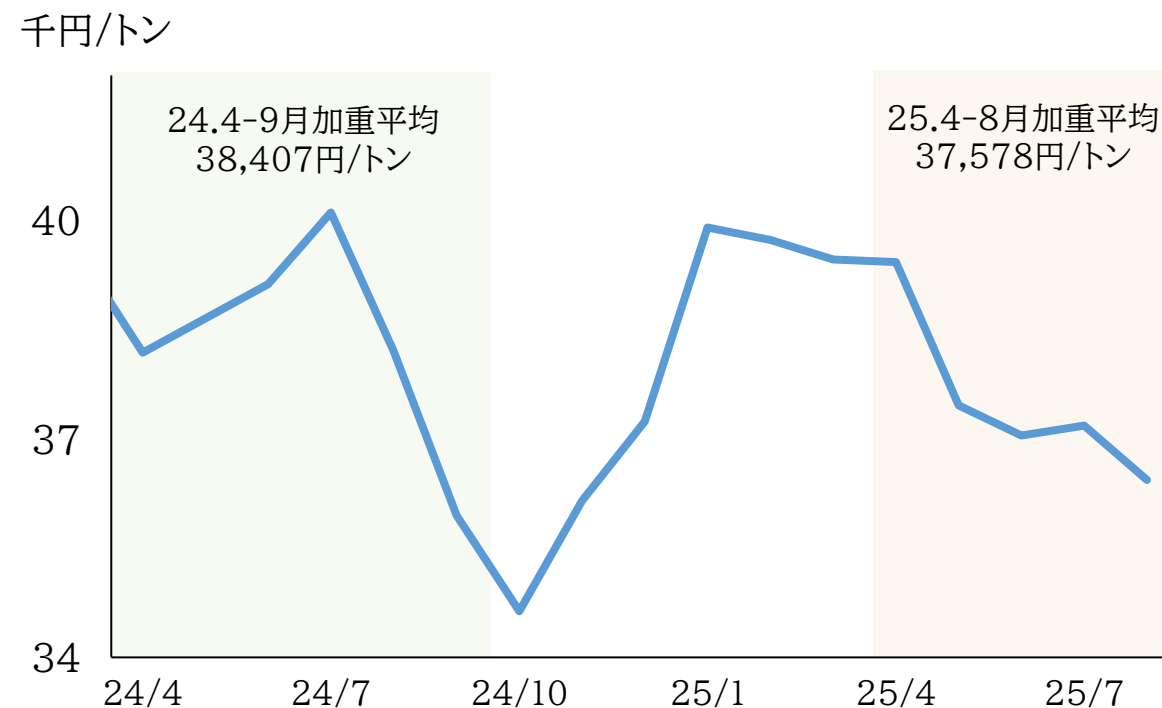
[参考] DEレシオ:負債資本倍率。有利子負債が自己資本の何倍かを計算した数値。

- ◇ とうもろこしシカゴ相場は、下落基調であったが、8月以降は上昇し、前年同期比で横ばい
- ◇ 為替相場は、緩やかに円安で推移したものの、前年同期比では円高
- ◇ とうもろこし通関価格は、円高の影響により、前年同期比で下落

とうもろこしシカゴ相場と為替相場の推移



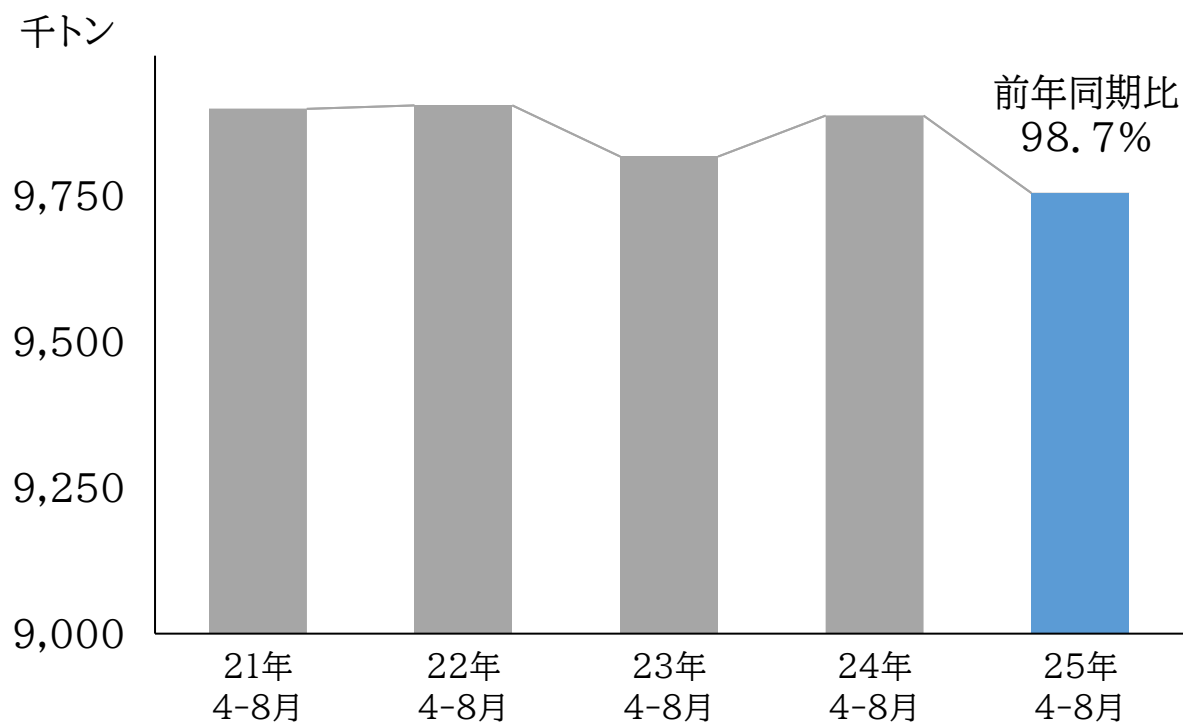
とうもろこし通関価格の推移



※「財務省貿易統計」、25/8までの推移

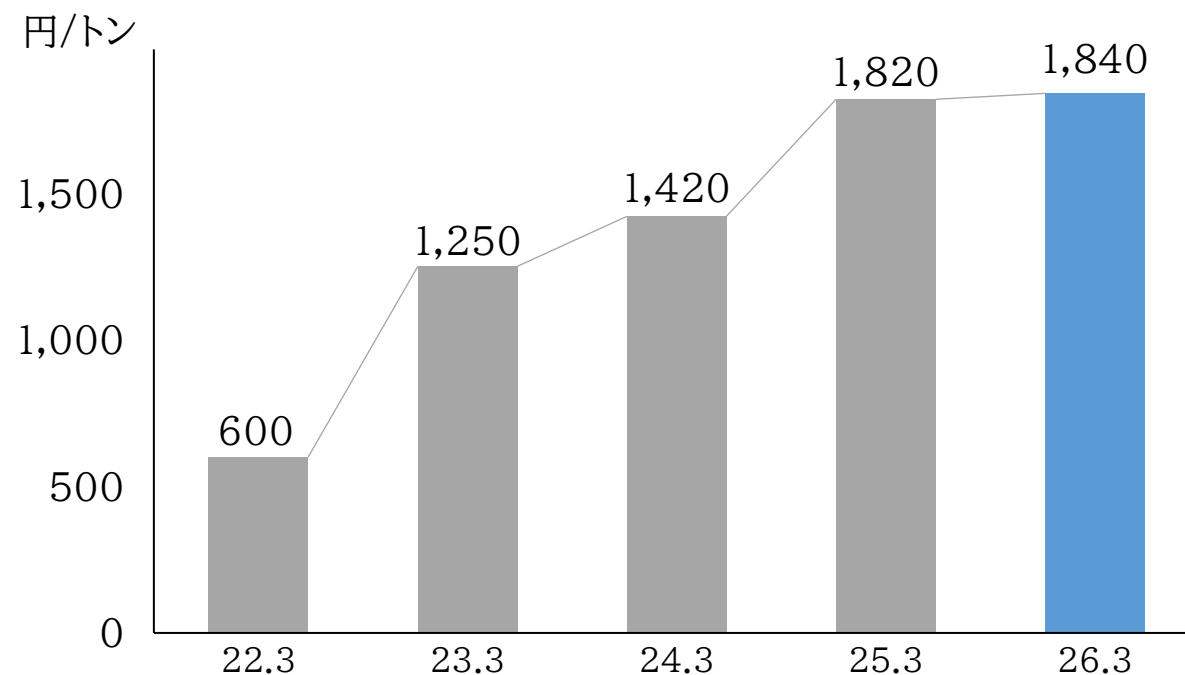
- ◇ 25年4-8月の畜産飼料の市場流通量は前年同期を下回る
- ◇ 26.3期の基金積立金単価は前期比+20円/トンの微増となり、依然として高水準

畜産飼料 4-8月市場流通量の推移



※「農林水産省飼料月報」、輸出用除く

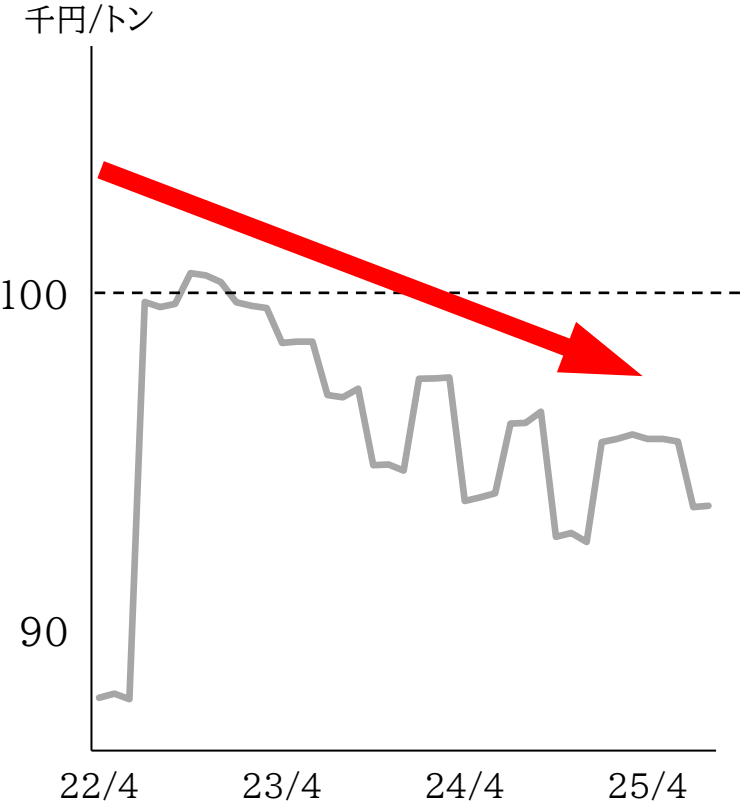
基金積立金単価の推移



事業環境③

- ◇ 配合飼料価格は22年7月に高騰したものの、その後緩やかに下落
- ◇ 畜産物相場は牛肉価格は概ね横ばい、その他は過去と比較して高い水準で推移

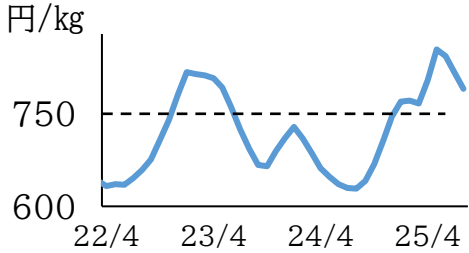
配合飼料価格の推移



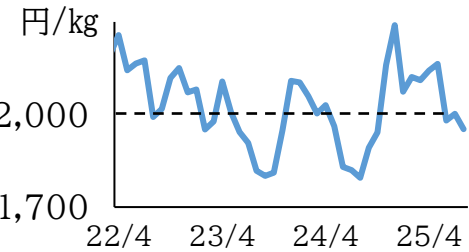
※ 配合飼料供給安定機構「飼料月報」、
全畜種加重平均(袋物,バラ)工場渡価格
25/8までの推移

畜産物相場 ※(独)農畜産業振興機構「国内統計資料」

鶏もも肉
(東京卸売価格)

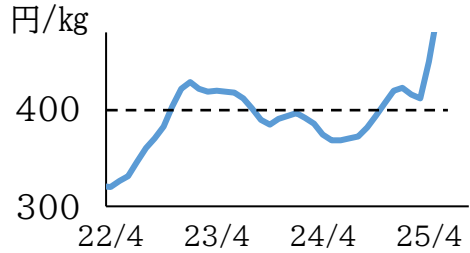


和牛去勢A3
(東京市場 卸売価格)

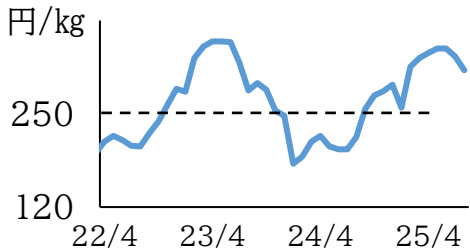


※ 25/8までの推移

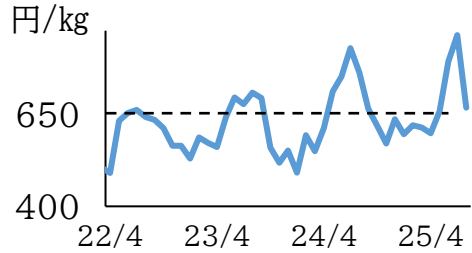
鶏むね肉
(東京卸売価格)



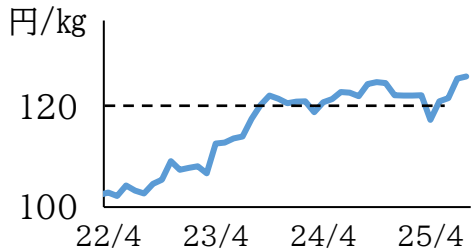
鶏卵
(東京Mサイズ)



豚肉 上物
(東京市場 卸売価格)



生乳農家
販売価格



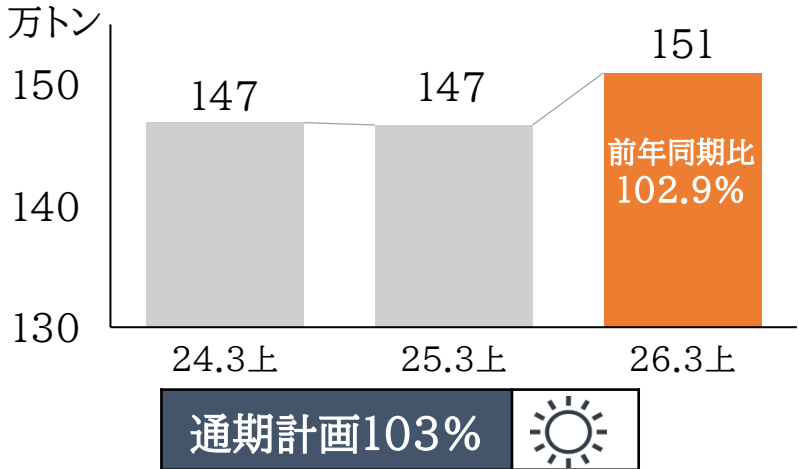
飼料セグメントの状況 ①畜産飼料の動向

- ◇ 畜産飼料販売量は計画通りに進捗し、前年同期を上回る(前年同期比102.9%)
 - 養豚用飼料におけるお客様との生産性向上の取組み、ブロイラー用飼料の品質が評価され増加
- ◇ 環境に配慮した飼料の販売量は前年同期を上回る
 - 窒素の排出を抑制する採卵鶏用飼料のリニューアルが進み、販売量が増加
- ◇ 差別化飼料比率は前年同期を下回る
 - 養牛用飼料において価格志向が高まり、差別化飼料の価値訴求が出来ず、汎用化

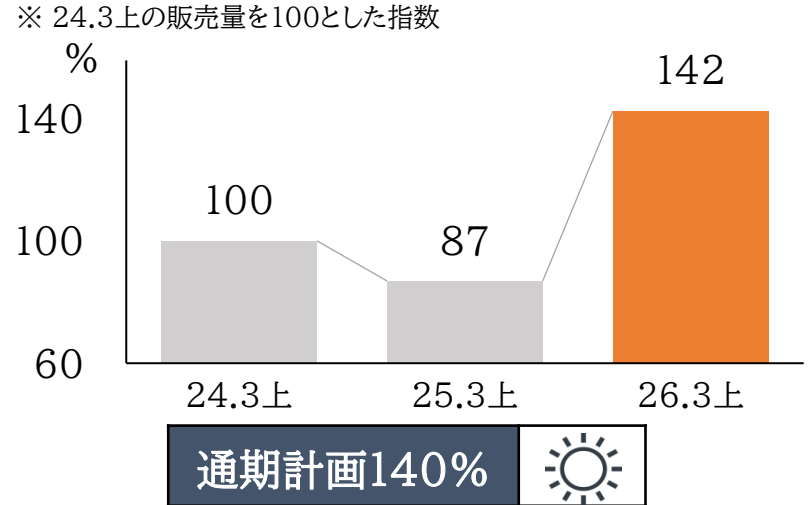
◆ 畜産飼料の販売量増加により2.0億円の利益増加

◆ 差別化飼料比率の低下により0.6億円の利益減少

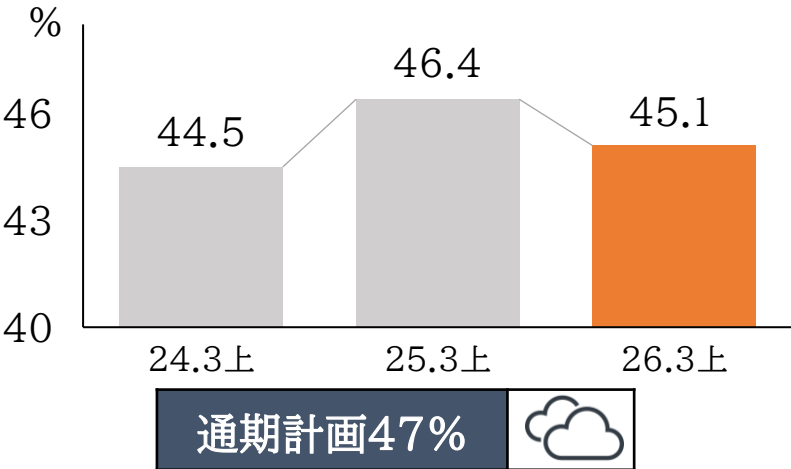
④畜産飼料の販売量



環境に配慮した飼料の販売量指数



差別化飼料の売上高構成比



【26.3期上期の原料ポジション】

◇ 前年同期比で改善

- 配合飼料価格は値下げしたものの、為替の円高により原材料価格が配合飼料価格以上に下落
- 配合割合の工夫等の取組みにより原価低減

◆ 3.7億円の利益増加

【原料ポジションとは】

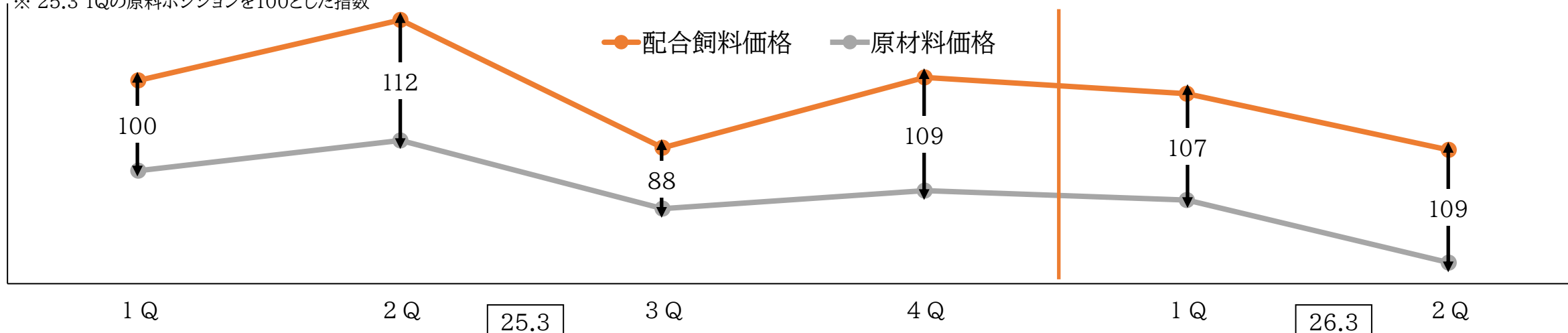
原材料価格と配合飼料価格の変動幅のこと

- ①原材料価格・・・穀物相場や為替、海上運賃等により変動
- ②配合飼料価格・・・四半期毎に改定

(例)変動幅が大きくなる＝原料ポジション改善

④配合飼料価格及び原材料価格の推移

※ 25.3 1Qの原料ポジションを100とした指数



通期計画との比較



飼料セグメントの状況 ③変動費及び固定費の状況

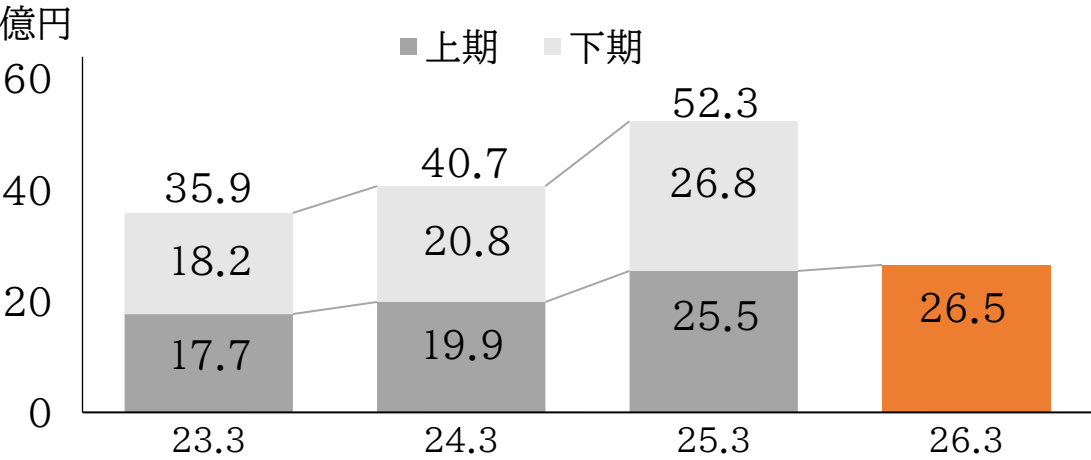
- ◇ 基金負担金は、積立金単価の上昇により増加したものの、計画通りに推移
- ◇ その他変動費単価は上昇したものの、計画との比較では改善
 - 電力・燃料費単価は横ばいも、運賃単価(原材料搬入時及び飼料運搬時)は値上げの影響により上昇
- ◇ 固定費額は増加したものの、計画通りに推移
 - 安定供給を果たすため、工場老朽化対策を計画的に実施し、減価償却費及び修繕消耗品費が増加

◆ 基金負担金が1.1億円増加

◆ 変動費が0.8億円増加

◆ 固定費が1.7億円増加

④基金負担金の推移

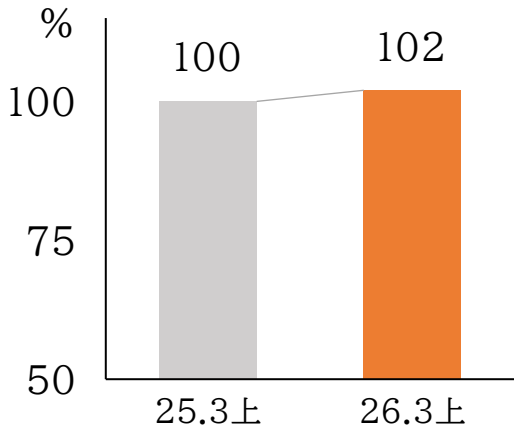


通期計画との比較



変動費単価の指数

※ 25.3上の単価を100とした指数

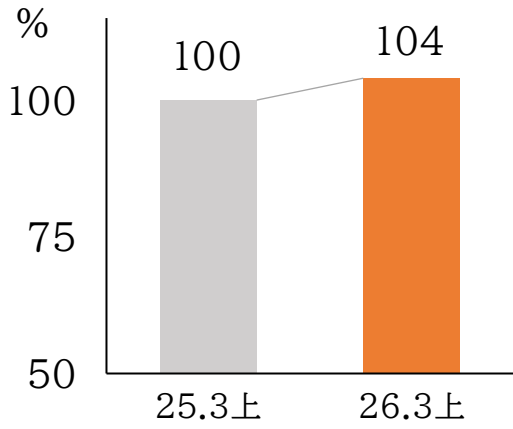


通期計画との比較



固定費金額の指数

※ 25.3上の金額を100とした指数



通期計画との比較

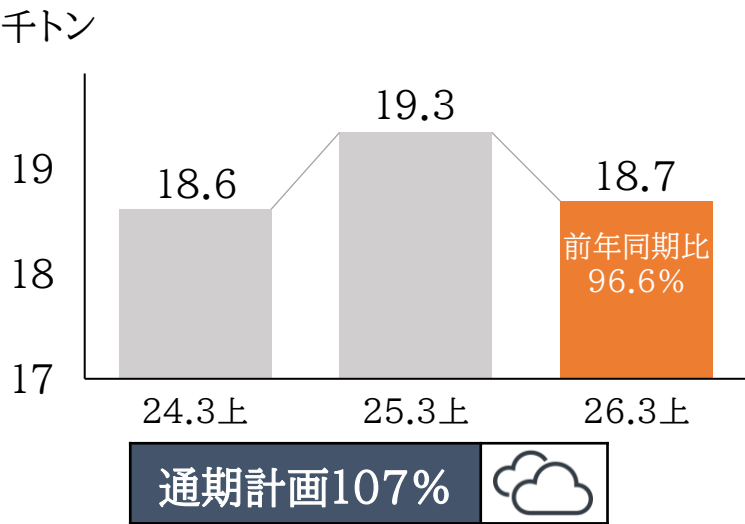


飼料セグメントの状況 ④水産飼料の動向

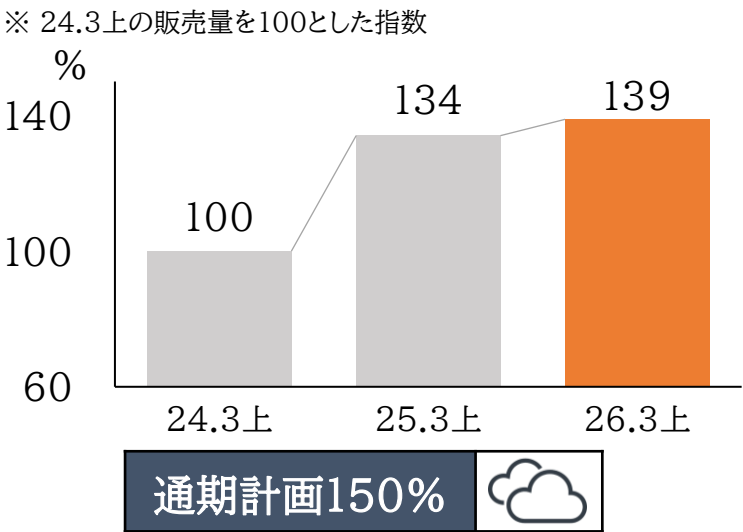
- ◇ 販売量は計画と前年同期ともに下回る
 - ウナギ用及びハマチ用飼料は堅調に推移も、タイ用飼料は市場流通量の減少に伴い販売量が減少
- ◇ 環境に配慮した飼料の販売量は、陸上養殖向けの製品の販売量増加により、計画は未達も前年同期を上回る
- ◇ 利益率は上昇
 - 配合割合の工夫により品質を維持しながらコストを抑制した製品の投入を実施
 - 主原料である魚粉及び代替原料である大豆粕の価格は大幅に下落

◆ 2.2億円の利益増加

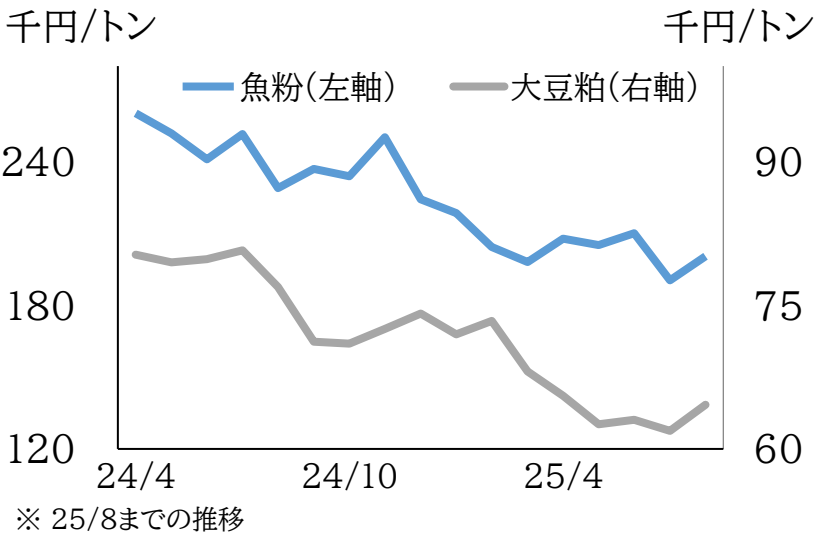
㊤水産飼料販売量



環境に配慮した飼料の販売量指数



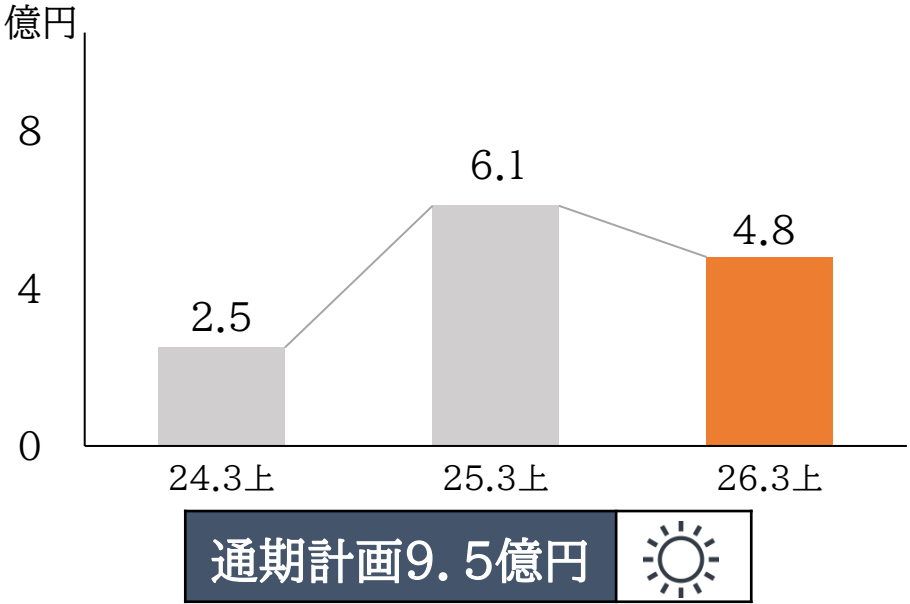
魚粉及び大豆粕価格の推移



その他セグメントの状況

- ◇ その他セグメントの利益は前年同期を下回るものの、計画通りに進捗
 - 鶏卵販売は、相場高を背景に特殊卵の販売が好調を維持し、利益は前年同期・計画ともに上回る
 - 畜産用機器は、前期末の補助金利用のための駆け込み需要の反動により減益となるも、計画は達成
 - 肥料は、販売量がほぼ計画通りに推移し、原価低減の取組みもあり、利益は前年同期・計画ともに上回る
 - 保険代理業は、畜産保険の販売が堅調に推移し、利益計画達成

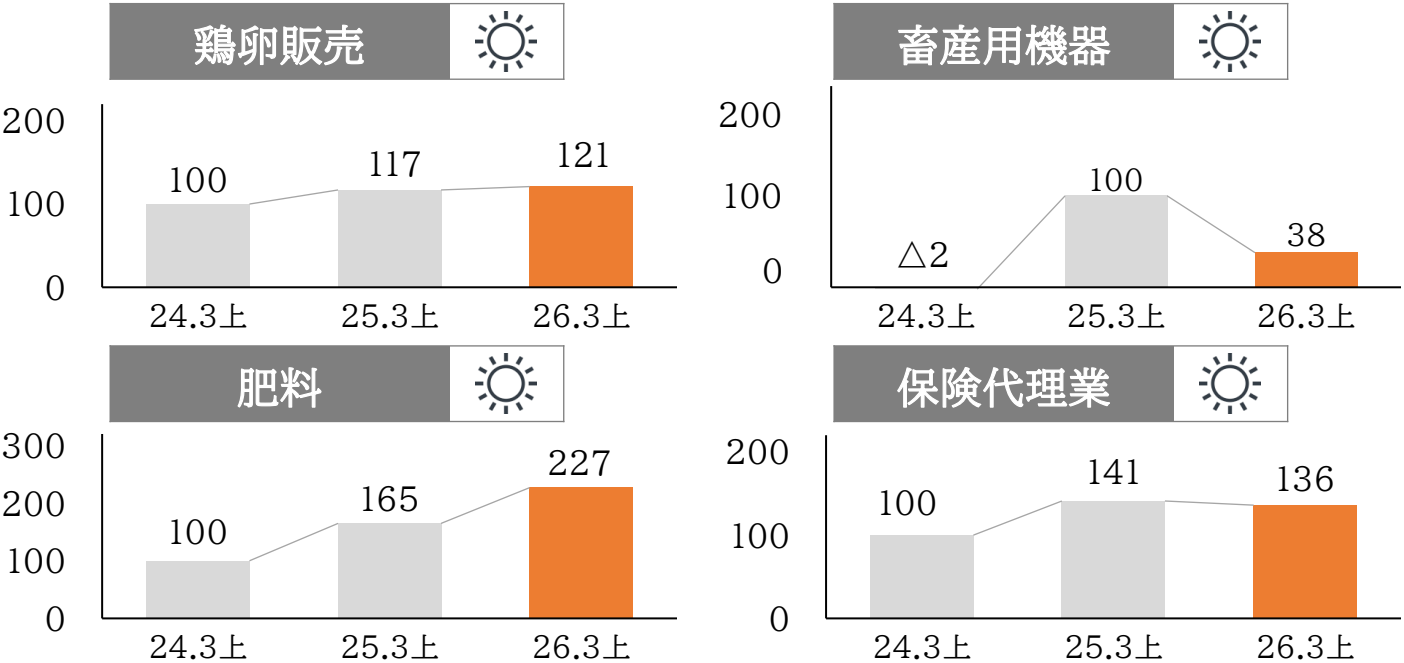
セグメント利益



☀️・・・計画達成 ☁️・・・計画未達

事業別の利益指数

※ グラフは24.3上期のセグメント利益を100とした指数。但し、畜産用機器は25.3上期を100としている



26.3上期 決算レビュー

◇ 連結経営成績	4
◇ 営業利益の増減要因	5
◇ 連結財政状態	6
◇ 事業環境①②③	7-9
◇ 飼料セグメントの状況	
① 畜産飼料の動向	10
② 原料ポジションの状況	11
③ 変動費及び固定費の状況	12
④ 水産飼料の動向	13
◇ その他セグメントの状況	14

株主還元

◇ 配当・自己株式取得の状況	16
◇ 株主優待	17

通期見通し

◇ 通期計画	19
◇ 今後の見通し①②	20-21

その他

◇ トピックス①②	23-24
◇ 参考資料	25

配当・自己株式取得の状況

26.3期

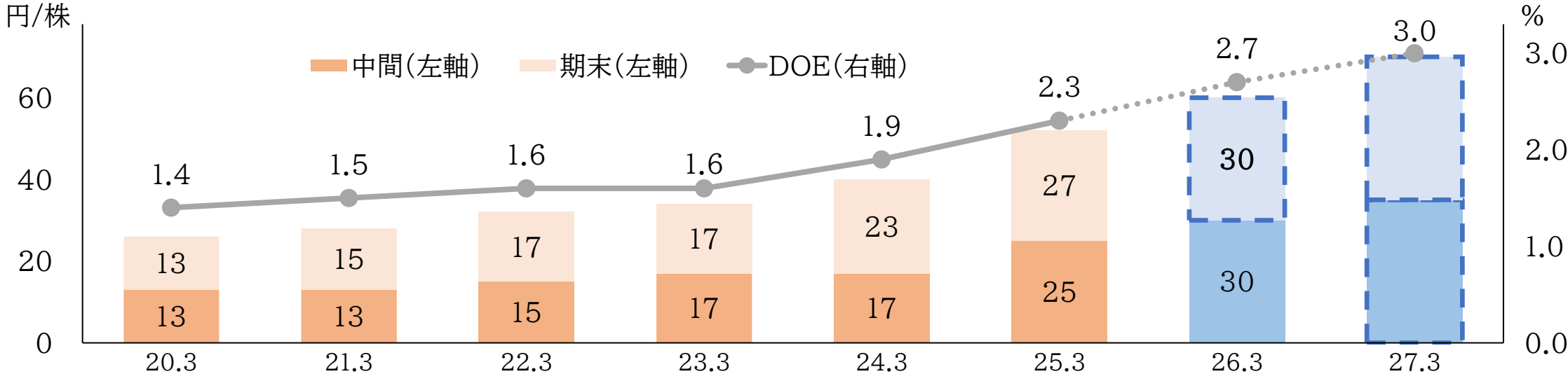
配当金

- ◇ 中間は30円/株で決議
- ◇ 期末は30円/株とし、年間60円/株(DOE2.7%)を予定

自己株式取得

- ◇ 上限115万株/15億円の取得を実施中
- 上期累計：45万株/7.4億円(2025年9月30日現在)

1株当たり配当金及びDOEの推移



配当金総額(億円)	7.8	8.4	9.5	10.0	11.8	15.3	17.4(予定)	(未定)
自己株式取得額(億円)	4.6	—	2.8	2.3	—	—	15.0(予定)	(未定)

割当基準日:9月末

- ◇ 当社の有機入り配合肥料『米太郎』で栽培した
富山県産コシヒカリを11月中旬に新米でお届け
- 500株以上1,000株未満3kg
 - 1,000株以上5kg



割当基準日:3月末

- ◇ 当社オリジナルQUOカードを6月下旬にお届け
- 500株以上1,000株未満1,000円分
 - 1,000株以上2,000円分
 - 1,000株以上を1年間以上継続保有3,000円分



※「1,000株以上を1年間以上継続保有」とは、株主名簿基準日(3月末日及び9月末日)の株主名簿に同一株主番号で連続3回以上掲載され、かつ各基準日において1,000株以上保有されていた株主様をいいます。

26.3上期 決算レビュー

◇ 連結経営成績	4
◇ 営業利益の増減要因	5
◇ 連結財政状態	6
◇ 事業環境①②③	7-9
◇ 飼料セグメントの状況	
① 畜産飼料の動向	10
② 原料ポジションの状況	11
③ 変動費及び固定費の状況	12
④ 水産飼料の動向	13
◇ その他セグメントの状況	14

株主還元

◇ 配当・自己株式取得の状況	16
◇ 株主優待	17

通期見通し

◇ 通期計画	19
◇ 今後の見通し①②	20-21

その他

◇ トピックス①②	23-24
◇ 参考資料	25

(単位:百万円)

	25.3 実	通期計画	26.3上期 実	計画進捗率
売上高	209,837	212,000	102,991	48.6%
飼料	191,390	194,500	93,953	48.3%
その他 ※1	18,447	17,500	9,038	51.6%
営業利益	4,281	5,200	2,414	46.4%
経常利益	4,815	5,600	2,725	48.7%
セグメント利益 ※2	4,986	5,850	2,949	50.4%
飼料	3,958	5,200	2,528	48.6%
その他 ※1	1,405	950	484	51.0%
調整額 ※3	△ 377	△300	△62	—
当期純利益	3,503	4,100	2,082	50.8%
設備投資額	4,167	3,500	1,547	44.2%
減価償却費	2,971	3,050	1,451	47.6%
基金負担金	5,238	5,500	2,653	48.2%

※1 その他セグメント:鶏卵販売・肥料・畜産用機器・保険代理業等
 2. セグメント利益:税金等調整前当期(中間)純利益
 3. 調整額:各報告セグメントに配分していない全社費用、金融収支を含む

今後の見通し①

項目	見通し
畜産飼料販売量	<ul style="list-style-type: none">◇ 畜産飼料販売量は計画通りに推移<ul style="list-style-type: none">○ 取組みが評価されているブロイラー用飼料と養豚用飼料は引き続き堅調に推移○ 採卵鶏用飼料はアニマルウェルフェアに対応した飼料の拡販により堅調に推移○ 養牛用飼料は価格競争の影響はあるものの、下期は回復○ 鳥インフルエンザ等の動物の疾病や生産者の廃業等により減少する可能性あり
差別化飼料の 売上高構成比	<ul style="list-style-type: none">◇ 下記差別化飼料の提案営業に注力し、差別化飼料比率は回復<ul style="list-style-type: none">○ ブロイラー用飼料：鶏の骨を丈夫にし、健康に育つ飼料○ 養牛用飼料：牛のゲップによる温室効果ガス排出の低減を狙った飼料
原料ポジション	<ul style="list-style-type: none">◇ 第3四半期は前年同期比では改善◇ 穀物相場及び為替の状況により、大きく変動する可能性あり

今後の見通し②

項目	見通し
水産飼料	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 販売量は下期に回復するも、通期計画は未達 <ul style="list-style-type: none"> ○ ウナギ用飼料は新製品の提案等、取組みを強化したことで堅調に推移 ○ ハマチ用飼料は成績改善の取組みが評価され、堅調に推移 ○ タイ用飼料は11月以降に市場の需要が増加し、販売量は回復 ◇ 魚粉相場は下落傾向で推移も、値下げにより利益率は低下 <ul style="list-style-type: none"> ○ 原料相場は為替と海上運賃の影響で変動する可能性あり
変動費単価及び固定費	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 変動費単価は、電力費・燃料費の補助金が無くなり上期より上昇するものの、通期では計画通りに推移 ◇ 固定費は、減価償却費が上期より増加するものの、通期では計画通りに推移
その他セグメント	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 各事業とも課題への取組みを継続し、販売量、利益ともに計画通りに推移

通期計画の達成を目指す

26.3上期 決算レビュー

◇ 連結経営成績	4
◇ 営業利益の増減要因	5
◇ 連結財政状態	6
◇ 事業環境①②③	7-9
◇ 飼料セグメントの状況	
① 畜産飼料の動向	10
② 原料ポジションの状況	11
③ 変動費及び固定費の状況	12
④ 水産飼料の動向	13
◇ その他セグメントの状況	14

株主還元

◇ 配当・自己株式取得の状況	16
◇ 株主優待	17

通期見通し

◇ 通期計画	19
◇ 今後の見通し①②	20-21

その他

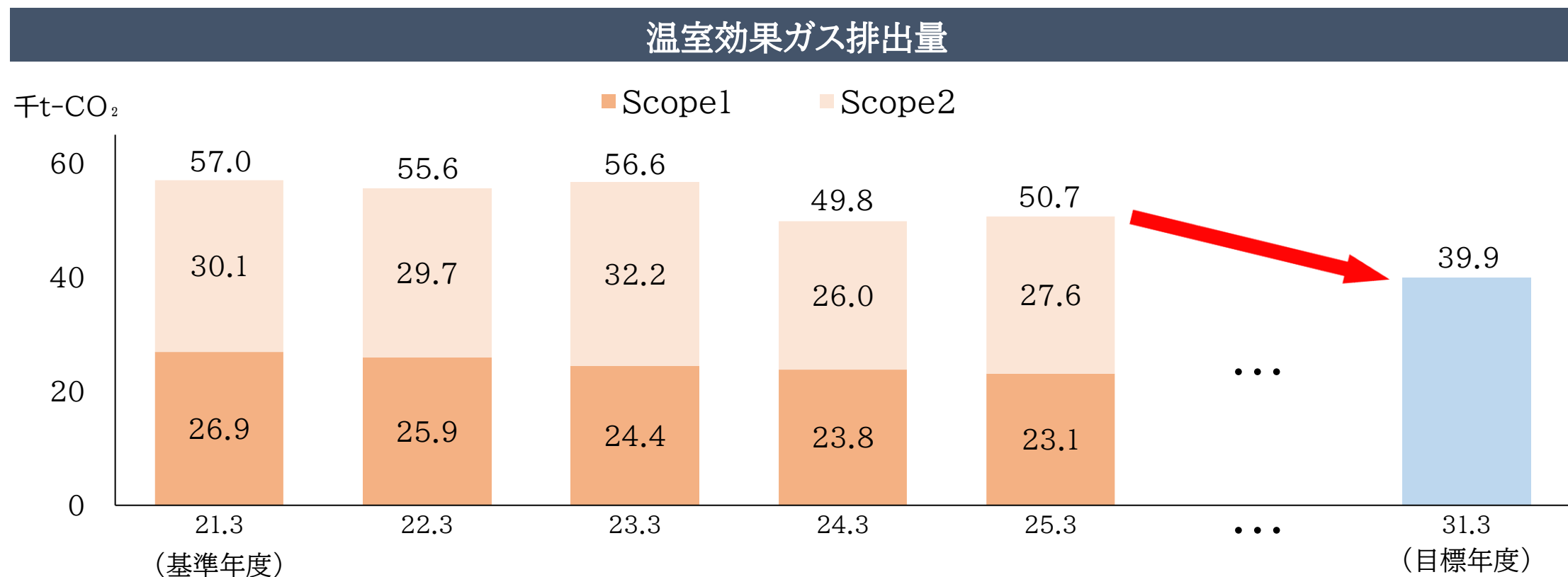
◇ トピックス①②	23-24
◇ 参考資料	25

◇ 31.3期までに温室効果ガス排出量を21.3期に比べて30%削減することを目指す(国内で排出されるScope1&2)

○ 省エネ取組み、使用燃料の転換、太陽光発電設備の導入、再エネ電力への切替え等により削減を目指す

◇ 25.3期実績は、基準年度比△11.1%の50.7千t-CO₂

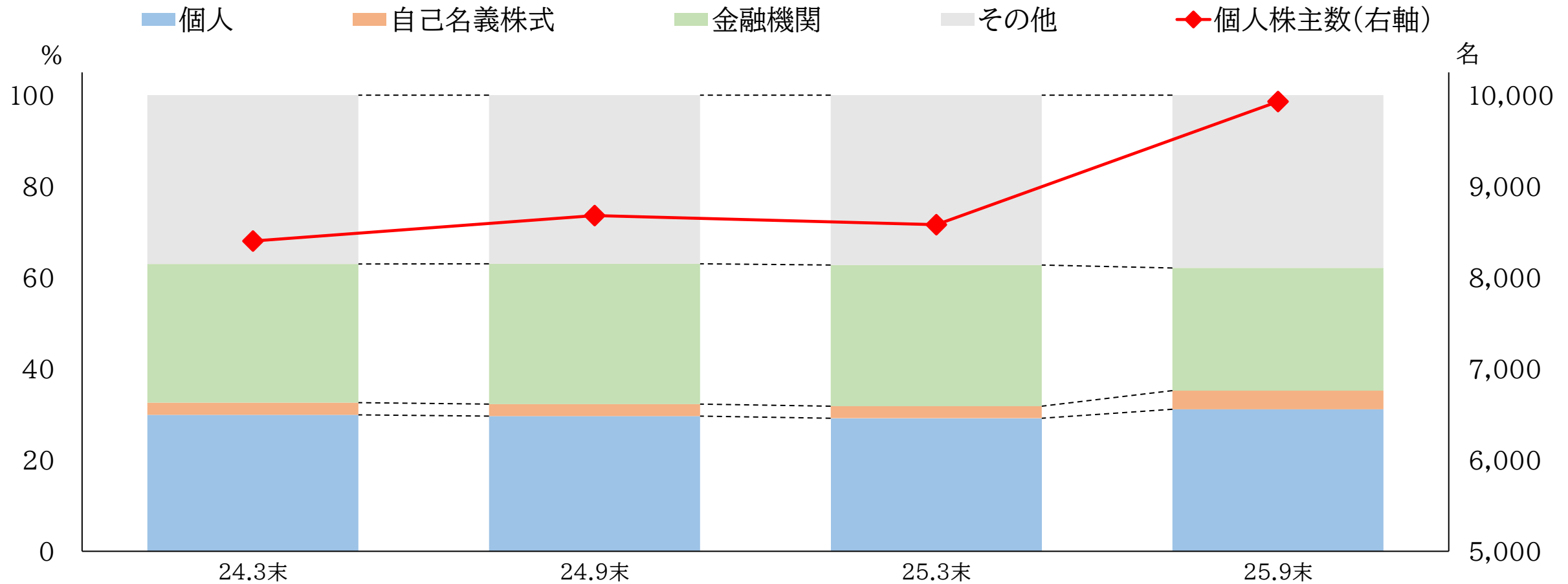
○ 製造数量の増加や新たな研究施設の稼働等に伴いエネルギー使用量が増加したことにより、CO₂排出量は増加



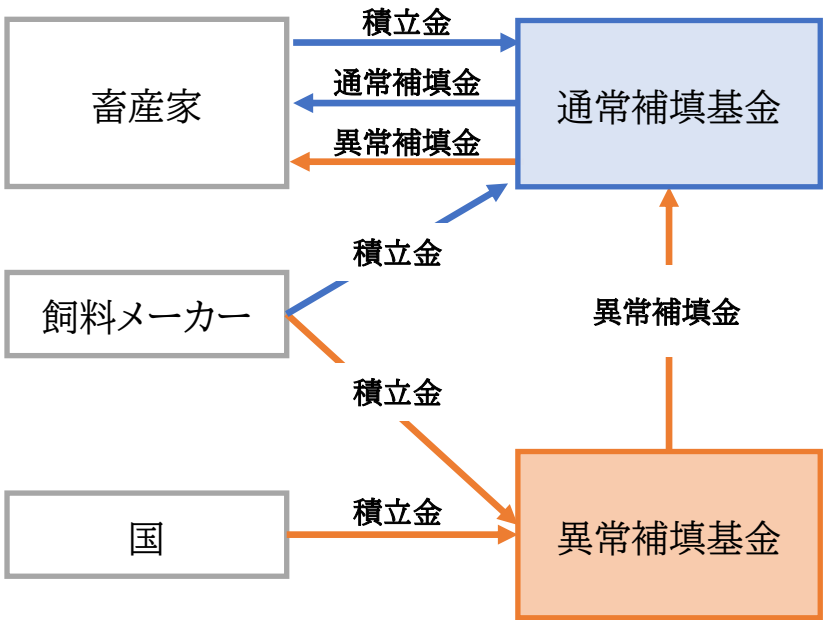
トピックス② 株式状況(所有者別株式比率)

25年9月 ◇ 25年3月末と比べ、金融機関が減少し、個人と自己名義株式が増加

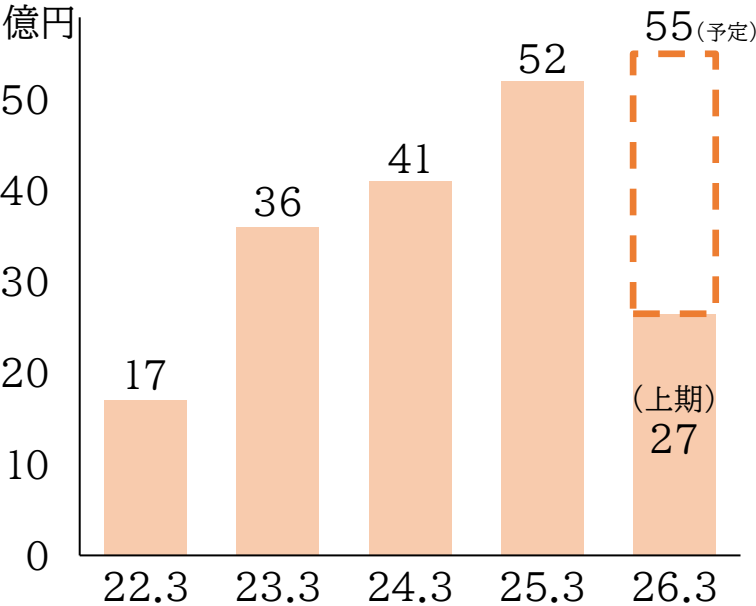
所有者別株式比率 推移



配合飼料価格安定制度



㊤基金負担金の推移



目的

◇ 飼料価格上昇による畜産経営の影響を緩和

内容

- ◇ 通常補填と異常な価格高騰時に通常補填を補完する異常補填の二段階の仕組みにより、畜産家へ補填金を交付
- ◇ 通常補填は畜産家と飼料メーカーが積立て
- ◇ 異常補填は国と飼料メーカーが積立て
- ◇ 積立金の額は財源により増減

差別化飼料

- ◇ お客様との取組みの中で開発
- ◇ お客様の生産性向上や特性ある畜産物の生産に貢献する高付加価値製品

環境に配慮した飼料

- ◇ 環境負荷の軽減、動物の飼育環境の改善、海洋資源の保護等につながる飼料
- ◇ 従来の飼料と比べて鶏糞や豚糞の発生量を低減する飼料、魚粉を使わない水産飼料などがある



本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。